

平成26年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

吉備の森冒険教育体験

通年実施

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

吉備の森の中で、クラスや部活動といった仲間の思いを一つにして、共通の目的に向かって進んでいくチームをつくるための手法として活用できる冒険教育（グループワーク）を体験的に学ぶ。

2. 事業の概要

(1) 日程

- ①4月22日（火）、②5月25日（日）、③6月21日（土）、④7月6日（日）、
- ⑤8月30日（土）【研修会】、⑥9月13日（土）、⑦10月13日（月）、
- ⑧11月23日（日）、⑨12月21日（日）、⑩1月24日（土）【研修会】、
- ⑪3月15日（日）

(2) 募集

各回20名（最少催行人数10名）

(3) 参加者

- ①11名、②10名、③11名、④11名、⑤28名、⑥8名、⑦6名、⑧中止、
- ⑨5名、⑩7名、⑪6名

(4) 講師

体験会	国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職
研修会	(株)プロジェクトアドベンチャージャパン 門田 卓史 氏

(5) 企画・運営のポイント

- 対象者が気軽に参加できるように、月に1回定期的に土日のいずれかの午前中に行う体験会にした。
- 体験会の講師は当施設企画指導専門職が行い、参加者の要望等に応えられるように定員を20名とした。また、最少催行人数を10人としてグループワークが成立するようにした。
- 8月と1月の研修会には、冒険教育（グループワーク）で定評のある(株)プロジェクトアドベンチャージャパンの門田卓史氏を講師として招聘した。
- 国立吉備青少年自然の家を利用した団体の指導者が継続的な学びの場となるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

4月22日	
時程	活動
19:00	開会 ・「学期始めに使えるゲーム」 ・「イニシアチブゲーム」 ・「カードを利用したふり返り」 ・「体験活動について」
20:45	・「活動計画」
21:00	閉会・解散

5月25日, 6月21日, 7月6日, 8月30日, 9月13日, 10月13日, 12月21日, 3月15日	
時程	活動
9:00	開会 ・「知り合う」 ・「距離を縮める」 ・「課題を解決する」 ・「目標を設定する」 ・「チームビルディングとは？」
12:00	閉会・解散

8月30日	
時程	活動
9:00	開会 ・「コミュニケーション」 ・「体験学習って？」
12:00	昼食
13:00	・「省スペースでの活動」 ・「グループディスカッション」 ・「体験をどう活かすか」
16:00	閉会解散

1月24日	
時程	活動
9:00	開会 ・「ふりかえりの方法」「転換」
12:00	昼食
13:00	・「習慣化・日常化」
16:00	閉会解散

(2) 活動の様子



コミュニケーション



体験学習って



ふりかえりって



研修報告

4. 成果・課題

(1) 参加者の満足度

事業全体の満足度 100%

(2) 成果

- ・2か月に一度、土日のいずれかの午前中を実施日として短時間で参加しやすくしたことで、参加者数の変動はあったが全てを実施することができた。
- ・研修内容をシリーズ展開にしたことで、期間は長くなるが体験することで、活動と理論を体系的に理解することができた。
- ・8月の研修会では、参加者がそれぞれの立場における問題意識を明らかにして、上半期に体験したことと関連付けながら今後の行動計画を作成することができた。1月の研修会では、それぞれが実践してきたことを価値づけたり、さらに取り組むべき課題について明らかにしたりすることができた。
- ・体験活動に興味のある方を少しずつ増やしていくことができるように、日帰りで体験できる機会を増やした。岡山県内外の学校やスポーツクラブ等幅広い青少年教育指導者に参加していただいた。
- ・年間を通じて開催することで参加者の定着を図ることができた。

(3) 参加者の声

「1日は長いように思いますが、実際にやってみるとそうでもなかったです。年度の早い時期にあると学級でも早く取り入れられるなと思いました。」

「午前中だけの日程が参加しやすくて良かった。」

「継続的に参加されている先生方がいらっしゃる方が良いと思いました。皆さん意欲的で素晴らしいです。」

(3) 課題

- ・当施設で学級経営やチームビルディングに効果のある冒険教育を学ぶことができるという認知度を上げるための方策を探る必要がある。
- ・広報・実施時期、内容を工夫してより多くの指導者の方が参加できるように工夫していきたい。
- ・今年度は事前に参加者に要望を聞く機会が少なかった。要望に応えるような柔軟な運営を行って参加者の要望に応えていきたい。

担当：主任企画指導専門職 宇江 賢